



門イ曾4
番 600
巻 116



山家更衣

菱布は草や松の衣うへ

あしなみしる目や文衣

白雲や梅樹心のと月影

まじりかきよき夜更の座や文衣

一 ^{御平} 妹の妹しむまじりや初給

とて

山川又晴み宿やまじり給

山宿や大宮目さつり衣の

南翔や花とよまきもの文衣

一 ^{御平} 衣のしほ坊の清極みり給

屋又

山宿のまじりよりまじり箱根弘

穿子親戀

思ひ神の書井の座をほらふ

結成やうの文音の何者

翠蓋
引付をなむ井の巻をほらふ

翠蓋
妹のうまの禱忌の巻をほらふ

翠蓋
思ひ神や七布を冷く子親

一歩をさすの情をほらふ

垣角人の神巻や咲く蜀魂

翠蓋
河多幡も七布をほらふ

度

度

度

度

度

度

ありてはるるおやせあつたの子規

いづれか思ひまゝに 水もあつた

遠山若葉

あつたはるるおやせあつたの子規

いづれか思ひまゝに 水もあつた

夕晴の筑波ハ新初草 山

いづれか思ひまゝに 水もあつた

あつたはるるおやせあつたの子規

入舟や向の筑波の山若葉

^{半信}く~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て

度又

^{半信}く~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て

てん

以有信しんを小橋已る葉は

く~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て~~て

舊都變秋

菊く又おれみ志登や麦の秋

菊く古兒軒塔や麦の秋所

福形も愛ゆき 麦又娘波山

春小

百女や芥子の麦の古部

麦姑半や愛と芥穂の跡

麦姑や古子の言井又月の隙

麦芥の將軍塚や控葉山子

麦姑や木の丸屋もあまあり

けふもやむこうよ 誓の麦の風

麦姑や面うの紅 又きあはの麻

月前蚊遣火

蚊遣火や長安萬戸所の月

蚊遣火や月よ夜ぬよち蚊遣

蚊遣火や日雲斜よころの月

蚊遣火や月の出汐の夕櫻

蚊遣火や七夕さきも縁月

蚊遣火や朝露や月の魚尾琴

自涼一席火をなす文の蚊遣

一筆月味山子帯して返りは

返り火や隣も殿の月の号

返り火や月の中も落れ



ふのまま



ふのまま





